

「みんなできつろう 市民トーク」開催結果（細江地区）

1 日時等

- (1) 日 時 令和元年7月29日（月） 午後7時00分～午後8時45分
- (2) 会 場 細江コミュニティセンター
- (3) 内 容 市長による市政情報、地区が希望する説明、意見交換
- (4) 参加人数 74人



2 地区の希望する市政内容について説明（19:45-:20:30）

(1) 細江コミュニティセンターの無停電化について

昨年度の市民トークで細江コミュニティセンターの無停電化を要望したが進行状態はどうなっていますか。

【回答：杉本市長】

昨年度もご質問をいただき、財源確保も踏まえたうえで非常用電源設備等の整備を検討しました。今年度、経済産業省の補助事業を使い、市内の公共施設に太陽光などの再生可能エネルギー施設が設置可能かどうかの調査を行うこととなり、細江コミュニティセンターもこの調査を予定しています。

調査の結果、太陽光施設が可能となれば、設置工事についても国の補助事業の対象となり、財源確保もできる可能性があります。

(2) 災害時の避難場所確保について

津波時の一時避難場所の指定はあるが、その後の避難先確保が難しい。（避難者数とスペースバランスが悪い）テントなどの設置場所を確保してほしい。

【回答：近藤防災監】

南海トラフ地震などの大規模災害が発生した際に、被災した方が一定期間避難生活を送る指定避難所として市内の39カ所を指定しています。それらで全

ての避難者を収容できないことも想定し、自宅が居住可能な方は在宅生活を基本とし、協定施設や広域一時滞在などの様々な手段を駆使して、良好な避難環境を整備したいと考えています。ご要望のテント泊や車中泊なども選択肢の中に含まれており、各学校などで避難所のレイアウトを考える際にはグラウンドをそうした用途のために割り当てることを勧めています。

(3) 浜岡原発について

浜岡原発再稼働を阻止してください（廃炉も）。避難訓練の際に「原発事故」についての情報も避難方法等も何も指示がありません。市政の無関心が露呈されています。原発（浜岡）についての市の考え方と今後の計画をわかり易く説明してください。また市民へ同様の内容を報告してください。

【回答：杉本市長】

市としての大目的は「市民の安全を確保」することです。これが担保されない限り浜岡原発の再稼働は容認できないとの立場を堅持しています。

市民の安全のためにはなお課題が多いと考えますが、中でも実効性のある広域避難計画の確立があります。当市は昨年度、広域避難計画の根幹となる「広域避難計画方針書」を策定しました。早期に皆様に説明ができるよう、避難先の各県や市町と協議を進めているところです。

(4) 市の将来ビジョンの共有

東京を中心とする都市一極集中を是正し、地方の活性化を図る「地方創生」が叫ばれて久しくなりました。近年、働き方改革、都市計画法改正による新たな用途地域の設定、関係各法の整備、更には5Gと呼ばれる高速大容量の通信規格の開発など環境整備は整いつつある中で、地方活性にとって定住人口もさることながら、関係人口を増やすことが重要との考え方が大きくなっています。

そうした視点で牧之原市の政策現状を見ると、市を豊かな住みよい街にするための方向性が、いまいち見えないように思います。短期的、中期的なビジョンがあるかもしれませんが、こうした方向性や展望が市民に共有されることが重要と思います。共有できてこそ協力もできると思います。

(5) 市の活性化について

空港が開港して10年が経過し、空港自体はそれなりに活性化が進んでいると思うが、空港より南地区（坂部・勝間田・静波・細江地区）の活性化が進んでいない。飛行機の発着便も増え搭乗者数も70万人を超えましたが、その賑わいの恩恵について現時点で何か計画していますか。

また現在、牧之原地区に高台開発計画が進められています。それが実現した場合、海岸線（細江・静波地区）の活性化をどう考えていますか。

【回答：市長】

「市の将来ビジョンを共有」するものとして、まさに第2次牧之原市総合計画の後期基本計画が始まったところです。この中で、沿岸部の防災機能を高める取組に加え、若者が魅力を感じるサービスやライフスタイルの創出の取組として、今年度から「未来若者プロジェクト」として全力で取り組んでいます。

沿岸部活性化の取組としては「静波マリン・ステーション」の整備や、東京五輪サーフィン競技ホストタウン関連の事業による地域の盛り上げ等を核として「優れた交通インフラ」、「食」、「マリンスポーツ」、「自然体験」、「景観」等を生かした具体的なサービスを創出していきたいと考えています。

こうした取組の継続により、高台が実現した後の沿岸部の活性化やインバウンドの周遊にもつながるものと考えています。

(6) IR候補地について

IR統合型リゾート施設の誘致について、誘致場所が萩間地区なのは何故か。

【回答：杉本市長】

この地区には、バブル時代に頓挫したゴルフ場の計画地があり、IR整備に最低必要とされる（50～60ha 以上）以上の余裕ある広大な土地（143ha）があります。この土地は地区の地縁団体「大寄地区企業誘致推進委員会」がまとめて所有しており、以前から企業誘致を積極的に推進している地区となります。

また、同地区は、東名・空港と御前崎港という地域の主要インフラを結ぶ473バイパスと近接しており、主要交通インフラとのアクセスに優れています。

(7) 窓口対応について

転入届を提出したら1時間以上待たされました。島田・藤枝で同じことをしても、そんなにかかりません。何に時間がかかっているのでしょうか。

【回答：八木市民生活部長】

窓口業務については、お客様をお待たせしないよう、業務の正確かつ迅速な処理に努めています。質問の転入届の場合、受付後、転入先の住所番地の確認や転入前の住所番地など、住民票への記載が完了するまでに、職員の入力・点検・確認など複数人でのチェックが必要となり、単身世帯の方でも20分程度時間を頂いています。

また、その他の手続き（印鑑登録、国民健康保険の申請、マイナンバーカードの継続利用など）を同時にされる場合、世帯状況や世帯人数などによっては、更に時間が掛かります。休み明けなど混雑が予想される場合には、窓口対応職員の人数を調整するなど、今以上に課内職員で協力しながら、出来る限りお客様をお待たせしないよう、努めてまいりますのでよろしくお願い致します。

(8) 市営の霊園構想について

牧之原市として市営の霊園を造る構想がありますか？
菊川市、御前崎市、掛川市、島田市は市営があります。

【回答：八木市民生活部長】

霊園が不足している状況ではないため、現在のところ構想はありません。

(9) 8050 問題

今世間で問題になっている「8050」問題。牧之原市でも、ひきこもりで悩んで相談できないお宅もあると思うので、調査して相談・支援をして欲しい。

【回答：大石福祉子ども部長】

世帯への訪問したときなどに「ひきこもり」と思われる方の存在に気づくことがあります。その際ご相談いただければ、健康推進課や社会福祉課及び相談支援事業所などの適切な支援に繋げることができます。

しかし、ご家族が「問題ない」と相談を断ってしまうと、プライバシーの問題で関わりが困難となってしまう場合もあります。そのため市では、本人からだけでなく、ご家族や同居ではないご親族、などの相談にも応じています。

市では、ひきこもりに限定せず、幅広い悩みに応じるため、相談先をホームページ等で掲載しています。また県では、ひきこもり支援センターを設置し、ひきこもり支援に特化した相談などを行っているのでご活用ください。

(10) 地域医療について

地域にとって必要な医療、特に榛原病院の脳神経外科の医師の常勤に対して、市はどのような取組をしているのか。今までもそれなりの対策はとってきていると思いますが進展はしていないと思います。病院の内部体制も十分にとれていないと思われます。(看者として感じたことですが) 榛原病院が地域の医療の核となるようがんばっていただきたいと思います。

(11) 産婦人科医についてについて

妊産婦通院等支援助成をする予算があるのなら、牧之原市に産婦人科医を呼んでください。娘が出産したのですが、地元の榛原病院や個人の産婦人科医院での出産ができず、焼津市立病院まで行きました。不便でした。

【回答：杉本市長】

平成 16 年度から開始された新医師臨床研修制度の影響から、榛原総合病院の常勤医師の確保が難しい状況が続いています。質問にありました脳神経外科については、常勤医の確保はできていませんが、島田市民病院、平成記念病院の

応援をいただき、週4日外来を行っています。また、救急を含め榛原総合病院で対応が難しい場合には、島田市民病院、平成記念病院との連携により、患者の受入れをお願いすることができています。

医師の確保については、徳洲会本部、浜松医科大学へ、脳外科・産科・小児科等の医師の派遣要請をしていますが、十分な医師派遣とまではなっていないため、榛原総合病院では医師確保の専任職員を配置し、内科、心臓血管外科、循環器内科、回復期リハビリの医師確保につながっています。

榛原総合病院は、医師、看護師等の人数が十分ではありませんが、この地域に必要な医療サービスの提供に努めています。平成30年5月に回復期リハビリ病棟を開き、脳血管疾患や骨折等の回復期のリハビリを市内で受けることができるようになりました。平成31年4月からは訪問看護ステーションを開設し、在宅療養を希望する方の訪問看護の体制を強化しています。

また現在市内にお産ができる施設がなく、ご不便をおかけしています。近年産科婦人科学会では、安全なお産の確保や働き方改革の実現のため、公的な分娩取扱病院の大規模化と重点化を進めています。志太榛原地域では焼津市立病院がその拠点病院の役割を担うとして、その体制づくりが進められてきています。お産ができる施設を再開するには、少なくとも5～6名ほどの医師を確保する必要があるため、難しい状況ではありますが、安心してお産ができる体制の確保に努力していきます。

(12) ため池の防災利用について

一の谷・二の谷のため池を防災に活用すべき計画が進んでいると思いますが、今年は調査・実施設計と聞いているが具体的スケジュールはどうか。また両ため池とも細江区で年一回環境整備（草刈り）をしています。今後行政での実施はいかがでしょうか。

【回答：大石産業経済部長】

一ノ谷池・二ノ谷池の改修工事については、坂口谷川水系ため池群として、坂口の旭ヶ谷池を含む3池を県農林事務所が施行します。今年度、3つのため池の調査・実施設計が行われるので、年明け以降に説明会等を開催させていただくことになると思います。工事期間については、一ノ谷池で2年、二ノ谷池は底樋改修が必要なため3年を見込んでいます。

ため池の改修工事にあたり、工事用進入路の調整や利水調整、場合によっては工事利用地の借地や用地買収なども必要となるので、これらの調整状況や予算措置等により優先順位を決定していくと伺っています。

また、草刈りについては、毎年区でやっていただきありがとうございます。市内には83カ所のため池があり、農業用の施設も多く存在しており、市だけでは対応できない状況で、地元のみなさんに管理をお願いしているのが実情です。

一ノ谷池、二ノ谷池ともに、農業関係の利用は少なくなっていますが、防災的な意味合いもございますので、引き続き地元での管理をお願いしたいと考えています。

(13) 田沼意次侯の情報発信計画

11月に行われる田沼意次侯の催しにおける経済効果はどのくらいあるか、また、これを機に今後、田沼意次侯のことをどのように他へ発信していくのか、今後の計画を伺いたい。

【回答：横山副市長】

田沼意次侯生誕300年事業については、実行委員会を中心に様々な事業を展開しています。11月17日に予定している『田沼意次侯生誕300年記念大祭』は、産業フェアを御城下風にアレンジし、場所も城下内である相良小学校グラウンドに移し、テント100張り、ステージでは意次侯に関する催し物を行い、本通りにおいて仮装大名行列（60人）を予定しています。

田沼意次侯生誕300年記念大祭では2万5千人以上の集客を見込んでおり、単純に物販等で1人千円使えば2,500万円以上の経済効果が見込まれます。ぜひ多くの皆様にご来場していただきたいと思っております。

田沼に関する商品開発では、既にお茶や小物の開発を進めている地元業者があり、今後の経済効果に期待しています。今回の記念事業は、こうした産業・観光による経済効果だけではなく、江戸幕府老中として優れた先見の明と、政治的手腕を発揮した意次侯の功績を再評価するとともに、ゆかりの地に住む市民の誇りと一体感の醸成を目的として取り組んでいます。

市民はもとより、県内外から多くの皆さんに牧之原市を訪れていただけるよう情報発信に取り組み、一過性で終わらせることなく、意次侯の偉業や精神が将来に末永く引き継がれるよう努めます。今年5月に関東周辺で3万部発行している『江戸楽』にて意次侯特集を掲載、地方情報紙『すろーかる』でも特集を掲載するなど、市外へのPRも実施中です。また専用サイト『意次ドットコム』において、意次に関する情報や事業について発信していますし、10月には東京スカイツリー『そらまち広場』においてPR、物販も予定しています。

(14) 河川改修について

沢垂川河川改修に伴う測量作業が8月下旬には終了するというのですが、その後の改修の計画実施予定などについて教えてください。

【回答：飯塚建設部長】

改修計画としては坂口谷川へ直接抜ける新たな放水路を整備し、併せて沢垂川本線の改修をすることになりますが、現在測量と併せて工事設計を並行して

行っており、設計ができたところで（秋頃）説明会を予定しています。また用地の境界測量も行っているため、完了次第境界立会を実施します。今後、根松交差点付近の事業用地にかかる地権者との交渉を進め、用地を取得します。

来年度からは県道細江金谷線から上流に向かい工事を進めて行くとともに、坂口谷川の河川整備計画の変更を進め、変更ができたところで県道から自転車道沿いに放水路を整備していきます。

(15) 排水ポンプの管理について

細江区内には、地区管理として4台の排水ポンプ（東福田3・寄子1）があるが、管理に伴う行政と地区との書面での覚書などの作成をお願いしたい。

【回答：飯塚建設部長】

細江地区に設置したポンプについては、協定書を取り交わし維持管理区分を明確にしたいと考えていますが、他の地区にも同様の施設があることから、調整をとりながら今年度中に協定を締結したいと考えています。

(16) 側溝蓋のFRPグレーチング化

班の年齢層が上がってきており、一斉清掃時にコンクリート蓋では、持ち上げるのが負担となってきた。土が溜まる箇所をFRPグレーチングにすることで、その負担が軽くなる。

【回答：飯塚建設部長】

FRPグレーチングは建築用として販売されているようですが、車道用の溝蓋としての販売があるか確認できておらず、あるとしても割高と想定されます。今後は、地域の負担が少なく（軽量）、かつ経済的なものを検討していきたいと考えています。なお活動の手助けとして、溝蓋を簡単に撤去・設置できる道具の貸し出しを行っているので、建設管理課へご相談ください。

(17) 秋葉公園の駐車場について

先日（6月9日）にあじさい開花中の秋葉公園に行ってきました。日曜の小雨模様の中、見物客の車が多数、特に午後には駐車待ちの車が路側に常時3名位待機という状態でした。現在の構造物を撤去し、駐車台数の増加整備をお願いします。ゆうゆうランドの駐車場の様に！トイレも洋式に。

【回答：飯塚建設部長】

質問のとおり、アジサイの花期には来園者が増加し、駐車場が不足しています（駐車可能台数8台）。これまで臨時駐車場として「かりんぼの里公園」へ案内してきました。駐車場植栽木の撤去及び駐車方向の変更で数台分の駐車枠の

増加を見込むことはできますので、安全等も考慮して検討していきます。

なお、秋葉公園については男女兼用ではありますが既に洋式化済みです。

(18) 高台開発について

高台開発が叫ばれて数年経ちますが、現段階での進捗状況や開発した後、市の発展にどのような効果があるか、人口の拡大（雇用や住居）、経済面、産業の振興など具体的に教えてもらいたい。

【回答：杉本市長】

東名高速道路相良牧之原インターチェンジ北側地区の開発は、地域産業の振興、雇用の場の確保、移住・定住人口の拡大、災害に強いまちづくりなど、市全体に効果が及ぶ新たな拠点、賑わいの場の創出に全力で取り組んでいます。準備組合では、一括業務代行予定者候補として選定した「大和ハウス工業株式会社」と土地区画整理事業の実施に向けた土地利用計画や事業計画の検討、事業費の精査等を進めています。

(19) 図書館の充実

特に子どもたちの学習スペースを確保したい。隣町、吉田町との違いは蔵書数よりも子どもたちの学習スペース、子どもたちの居場所が確保されている。

学校に行けない子どももいるかもしれない。短期的には難しいかもしれないが、ぜひ検討していただきたい。次代を担う子どもたちのために。

【回答：内山教育文化部長】

図書館については、今後、蔵書数も含め、現図書館の機能拡充を図っていく予定です。学習スペースについても、拡充後の図書館内に確保できるよう検討していきます。榛原図書館については、榛原文化センターの1階を改修する方向で、来年度から具体的な検討に入る予定です。

(20) バイリンガル相談員の常駐化

牧之原市における外国人人口が2,100人（6月末）を超え、それに伴い外国人児童も増え、現在細江小学校には交替でバイリンガル相談員がみえているようですが、担任の先生方の授業の進め方は大変なようです。

バイリンガル相談員の常駐はできないでしょうか。

【回答：橋本教育長】

細江小学校に在籍している外国籍児童45人のうち6人は今年度に入ってから編入しており、急激に増加している状態です。また、全校児童数438人に対する比率も10%を越えており、学校運営上も配慮が必要な状況となっています。

現在はバイリンガル相談員を細江小に集中して配置しています。月曜日3名、火曜日～金曜日は各2名がそれぞれ午前中の3～4時間細江小に勤務しており、午前中は複数の相談員が常駐できている状態です。

バイリンガル相談員は、家庭に配布する通知文書の翻訳を担当しつつ、日本語指導を必要としている児童生徒の指導もサポートしています。今後もバイリンガル相談員の増員を含め、児童生徒や担当教員への対応を充実していきます。

3 個人からの意見・質問 (20:30-:20:45)

(1) 県の防災アプリについて

避難訓練は効果あると思いますが、実際に行動に移れるかどうか、各自色々な事情で難しい面も多いと思います。そこで先日「静岡県の防災」アプリを自分で使ってみました。市の避難地を調べてみたところ、細江地区は登録がありましたが、相良地区内はまだ登録がされていませんでした。

また市庁舎4階が防災に変わったということで、そちらも聞きたいです。

【回答：近藤防災監】

アプリで避難所避難地を検索すると、自分がいる場所を自動的に判別し、その付近の避難地避難所が表示されるようになっています。その状態で相良の方に動かしても表示されません。これは通信のトラフィックを圧迫しないための仕様です。他の場所を知りたい場合には、右上の再検索ボタンを押して再検索すれば、新たな場所を中心として表示されます。

【再質問】

災害時に武器になるアプリがあっても、それが住民に伝わっていない。市の職員が何らかの形で、アプリの存在や、操作方法を教えることが大切ではないかと思います。皆が分かるように説明会などを開催してもらいたいです。

【回答：杉本市長】

このアプリはいいツールとして活用できると思います。資料の全戸配布もしましたが、周知という意味では防災訓練があります。皆が集まった時に説明できるような環境が必要です。また各地区で勉強会をやりたいという声があれば、職員を派遣します。

2つ目の庁舎4階のフロアの活用について、昨年さざんかをリニューアルして健康福祉部門をすべてさざんかに集約しました。その関係で、榛原庁舎2階の高齢者福祉課が抜けました。税務課を3階から降ろし、総務課と管理情報課を3階に降ろしました。今までは災害があった時には、その都度、会議室を災害対策本部として立ち上げるため、準備に時間がかかりました。今回、空きスペースを使って4階フロアの3分の2を災害対策本部として常設しました。

4階には県・国との通信のシステムが数多くありますので、すぐに連携でき安心安全の向上に貢献したと考えています。

【回答：近藤防災監】

例年9月、12月、3月にそれぞれ訓練があり、参加率は30%を超えています。また市民意識調査によると、防犯活動や地域の活動に参加した方が20%あります。これは首都圏の人間から見ると驚異的な数字です。2桁違います。

皆さん自身の力で地域の安全を守り、情報を共有することのできる方々だと思えますし、皆さんの実力に大変期待しています。さらにそれを行政としてもお手伝いしていきたいと思えます。

(2) 田沼意次侯について

田沼意次の生誕記念祭について提案です。剣客商売という池上正太郎さんが書いたドラマには田沼意次がよく出てきますが、非常によい評価をしてくれています。田沼意次は霞ヶ浦を開発するなど、田中角栄の日本列島改造論のように国を発展させようとしたが、政治情勢が悪くて失脚させられました。

田沼意次の見直しをする時には、教科書から直していただきたいと思えます。刷り込みというものは怖いもので、小学校・中学校から私も刷り込みをされています。田沼意次は賄賂をもらって悪い奴だというイメージが全国に広がっています。ぜひイメージを払拭して、相良のいい所を売り出してほしいです。

【回答：杉本市長】

色んな歴史家が「田沼意次は先進的な考えを持っていた」と言います。一方で賄賂政治家とも言われていますので、今回の生誕300年事業で田沼意次侯の功績をしっかりと称えて、意識を変えていく礎にしたいと考えています。

牧之原市で講演していただいた歴史家で大学教授の大石学先生は、「田沼意次がどういう国を作りたかったのかということ、みんなで考えてみようじゃないか。それが一つの事業になるのではないか。」とお話しされました。そうした動きを加速させ、NHKの大河ドラマ化を目指しています。いろんな歴史家が本を書いています。そうしたものを反映させていくことによって、今の教科書がどういう内容なのか見ていませんが、改訂に繋がればと思えます。

【回答：橋本教育長】

子どもたちの学びには、教科書だけでなく副読本があります。そこでは意次侯に関するページがあり、これまでの業績を称える内容になっています。市内の学校、特に相良小学校では、自主的な勉強の中で田沼意次について勉強し、劇にしたり、学習のまとめをする取り組みをしています。これを市内の全学校だけでなく、県内や全国に広めて発信したいと思えます。